

学校名	盛岡大学短期大学部
設置者名	学校法人盛岡大学

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表

(1) 幼児教育科

No.	実務経験のある教員等による授業科目名	単位数	備考	添付書類
1	保育原理	2		No.1-1
2	教育原理	2		No.1-2
3	子どもの保健	2		No.1-3
4	保育内容総論	2		No.1-4
5	保育内容 言葉	2		No.1-5
合計単位数		10		

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年	2単位	卒業必修・保育士必修
担当教員			
岩崎 基次			
幼児教育科DP(1)(2)に関連	幼教－専門－卒業【卒・保】	実務経験のある教員による授業	【講義】
添付ファイル			

小見出し	保育の理論と内容
授業計画	<p>第一回 子どもの誕生と子育ての問題等についての理解「園内外の保護者に対する子育て支援」</p> <p>第二回 幼稚園、保育所、認定子ども園等の施設についての理解</p> <p>第三回 子どもの最善の利益と保育</p> <p>第四回 子どもの理解(実態)に基づく保育の過程(計画・実践・記録・省察・評価・改善)の理解</p> <p>第五回 保育内容の五領域について</p> <p>第六回 幼児期に育みたい資質・能力、育ってほしい10の姿</p> <p>第七回 保育と形態 【子どもの自由度から見た形態(一斉保育と自由保育)】</p> <p>第八回 保育と形態 【一斉保育と自由保育の課題と対応】(長所短所についてグループワーク、発表、確認と振り返り)</p> <p>第九回 保育と形態 【子どもの自由度から見たその他の形態】</p> <p>第十回 保育と形態 【縦割り保育、統合保育等】(長所短所についてグループワーク、発表、確認と振り返り)</p> <p>第十一回 遊びの見方(パターンの遊びの分類、機能的側面の分類)</p> <p>第十二回 子どもの主体的な活動と環境構成の意義</p> <p>第十三回 子どもの主体的・対話的で深い学び</p> <p>第十四回 保育での危機管理と教育</p> <p>第十五回 保育内容の記録と個々の育ちの記録、家庭・地域との連携</p>
授業のねらい及び概要	<p>この授業では、保育の意義及び目的について理解し、保育の現状と課題について知り理解を深める。その上で保育に関する制度等と保育所保育指針における保育の必要性とその位置づけについて理解することをねらいとする。具体的には、保育の意義や目的等について事例を提示しながら具体的に理解できるようにする。また、歴史的背景と思想、地域性の課題等について、保育の形態と遊びの指導、保育の共通性と育ち合い、個々の尊重と主体的な学び等について具体的に状況を思案しながら学ぶことが出来るようにする。幼児教育を实践(幼稚園教諭15年間)経験してきた実践より保育の現場でのそれぞれの園に応じた実際の状況を伝えながら保育の根本の原理について焦点をあて、学生同士グループワークを取り入れながら理解を深めていくこととする。</p>
到達目標	<p>到達目標1 1. 具体的に現在の保育の現状と課題についてその関係を説明することができる。PD(1)</p> <p>到達目標2 2. 保育所と幼稚園の保育の共通点と相違と小学校との接続に関して理解する。PD(1)</p> <p>到達目標3 3. 地域や保育の理念の違いにより、様々な保育の形態の良さと問題点を理解し具体的に発表する。PD(2)</p> <p>到達目標4 4. 危機管理の理解と地域とのかかわりの重要性について理解し子育て支援の実際について理解を深める。PD(2)</p> <p>到達目標5</p> <p>到達目標6</p> <p>到達目標7</p>

	到達目標8
事前・事後学修	事前に、実際に保育所を見学して一日の流れ知ること又は具体的な保育の流れが分かる資料に目を通しておく。 事後に、授業で行った内容について10分程度そこでの重要なことは何か自分なりに考えてみる。
評価方法	レポート(30%)として、保育内容についてのレポートを評価する。 試験(70%)として、総合的に内容についてペーパーテストを行い評価する。 授業の参加の仕方や提出物等の状況によっては減点の対象にする。
履修上の留意点	・学生同士の協議時は、積極的に参加して意見交換を行い、問題に対する考え方・視野を広げること。 ・何らかの事情で授業を欠席した場合には、次の授業までに配布プリント等を取りに来て授業内容を確認すること。
テキスト	プリント配布、(株)みらい、井上孝之、知のゆりかご『つながる保育原理』、2,268円
参考文献	保育所保育指針解説
教員e-mailアドレス	miwasaki@morioka-u.ac.jp
オフィスアワー	研究室前に掲示

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年	2単位	卒業必修・幼稚園2種必修・保育士必修
担当教員			
岩崎 基次			
幼児教育科DP(1)に関連	幼教－専門－卒業【卒・幼保】	実務経験のある教員による授業	【講義】
添付ファイル			

小見出し	幼児教育の原理
授業計画	<p>第一回 教育とは何か、教育の意義と目的</p> <p>第二回 学校教育の基礎になった思想 1 (コメニウス と ルソー)</p> <p>第三回 学校教育の基礎になった思想 2 (ペスタロッチ)</p> <p>第四回 幼児教育の基礎になった思想 1 (フレーベル)</p> <p>第五回 幼児教育の基礎になった思想 2 (モンテッソーリ)</p> <p>第六回 学校教育の基礎になった思想 3 (デューイ)</p> <p>第七回 海外の幼児教育の実践例 「レッジョ・エミリアの幼児教育DVDの視聴」</p> <p>第八回 海外の幼児教育の実践例「レッジョ・エミリアの幼児教育、オランダやフィンランドの幼児教育について」</p> <p>第九回 先人たちの示している経験主義教育と日本の教育の思想、「遊びを通して総合的な指導」の関連</p> <p>第十回 日本の学校教育の経験主義教育の実践事例『きのくに子どもの村学園』による課題提示</p> <p>第十一回 現代の日本の小学校教育の考え方 「生活科の取り組みと総合学習」</p> <p>第十二回 『きのくに子どもの村学園』の教育内容について各自レポートしたものをもとに協議 (グループディスカッション)</p> <p>第十三回 日本の学校教育の方向性と『きのくに子どもの村学園』の教育の共通点と違いについて</p> <p>第十四回 幼児教育と小学校教育の接続の理解</p> <p>第十五回 幼児教育における「環境を通して学び、共同の学び」について</p>
授業のねらい及び概要	<p>ここでは、歴史の先人たちの功績から教育の理論と実践、幼児教育から義務教育の教育の核となる考え方を学びながら、現在の初等教育と保育の基礎となっている「体験を通して」学ぶこと「遊びを通して総合的な指導」とは何か、について考えながら理解することを目的とする。前半に先人たちの功績を学びながら、授業の後半には前半の学んだ知識を基に幼児教育を实践(幼稚園教諭15年間)経験してきた実践を提示しながら理論や教育の制度を理解し、現在の初等教育の実際の難しさや問題について考える。教育原理の知識を記憶することに執着せずに、初等教育において提示された課題について各自が調べたことを元に発表し合うことを通して、考える視点を広げ自己解決能力を培いながら学べるように進めていこうとするものである。</p>
到達目標	<p>到達目標1 1. 家庭と学校と社会の中で教育の考え方、課題について考え理解する。</p> <p>到達目標2 2. 歴史の先人たちの教育の理論と実践の内容を理解する。</p> <p>到達目標3 3. 歴史的な教育の思想を基盤として現代の教育の基礎ができていることを理解する。</p> <p>到達目標4 4. それらが現在の幼児教育、初等教育の中で「体験を通して」学ぶこと、また、幼児教育の中で「遊びを通して総合的な指導」とあるが、その関連について考え、理解する。</p> <p>到達目標5 5. 具体的な教育事例を通して現在の教育現場の問題について学生同士の考えを伝え合い、議論することでいろいろな視点で考えることができる。</p> <p>到達目標6</p> <p>到達目標7</p>

	到達目標8
事前・事後学修	事前に、現在の初等教育の現場における課題について考えておく。 事後に、授業で行った内容について15分程度そこでの重要なことは何か自分なりに考えてみる。
評価方法	レポート(40%)として、経験主義の教育内容についてのレポートを評価する。 試験(60%)として、総合的に内容についてペーパーテストを行い評価する。 授業の参加の仕方や提出物等の状況によって減点の対象とする。
履修上の留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・学生同士の協議時は、積極的に参加して意見交換を行い、問題に対する考え方の違いのみならず、その根拠とする考え方に目を向けることとする。 ・何らかの事情で授業を欠席した場合には、次の授業までに配布プリント等を取りに来て授業内容を確認すること。
テキスト	プリント配布、(株)みらい、井上孝之編、知のゆりかご『つながる保育原理』、2,268円 幼稚園教育要領解説
参考文献	適宜紹介
教員e-mailアドレス	miwasaki@morioka-u.ac.jp
オフィスアワー	研究室前に掲示

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年	2単位	卒業必修
担当教員			
石川 正子			
幼児教育科DP(1)(2)(3)に関連	幼教-専門-保育【保】	実務経験のある教員による授業	【講義】
添付ファイル			

小見出し	保育者として子どもの心身の健康の健康増進を図るための基礎知識を身につける。		
授業計画	第1講	生命の保持と情緒の安定に係る保健活動の意義と目的	
	第2講	健康の概念と健康指標	
	第3講	現代社会における子どもの健康に関する現状と課題	
	第4講	地域における保健活動と児童虐待と防止	
	第5講	身体発育と生理機能の発達と保健	
	第6講	運動機能と精神発達	
	第7講	健康状態の観察	
	第8講	発育・発達の把握と健康診断	
	第9講	保護者との情報共有	
	第10講	主な疾病の特徴① 子どもの病気の特徴、感染症、免疫・アレルギー性疾患	
	第11講	主な疾病の特徴② 消化器疾患、循環器疾患、血液疾患	
	第12講	主な疾病の特徴③ 内分泌・代謝疾患	
	第13講	主な疾病の特徴④ 神経系の疾患、腎・泌尿器疾患	
	第14講	主な疾病の特徴⑤ 先天性の疾患	
	第15講	子どもの疾病の予防と対応	
授業のねらい及び概要	保育の専門家として子どもの生命の保持および情緒の安定を図るために、ひとり一人の健康や発育状態に応じた保健活動について習熟することを目的としている。具体的には、解剖学の観点から人体の発達や生理機能などの基礎知識を習得し、健康状態の観察および主な疾病の特徴や予防、適切な対応などについて画像を取り入れながら教授する。本講義は、保健師および養護教諭としての知識を生かし、長年の看護師および助産師としての実務経験に基づき、具体的な事例の解説を行いながら講義を行う。		
到達目標	到達目標1	子ども心身の健康増進を図る保健活動の意義を理解できる。	
	到達目標2	子どもの身体的な発育・発達について説明できる。	
	到達目標3	子どもの健康状態の把握および疾病の予防と対応について実践につなげることが出来る。	
	到達目標4		
	到達目標5		
	到達目標6		
	到達目標7		
	到達目標8		
事前・事後学修	事前学修として、シラバスまたは授業時の指示に従い受講前にテキストの該当箇所を熟読し授業に臨むこと。講義内容の理解を深められるよう関連する本や記事などを読んでおくこと（要する時間90分） 事後学習として、ノートやテキストを振り返り、不明な点は確認するなどして効果的な学習になるように努めること（要する時間90分）		

評価方法	定期試験 80%、参加姿勢(出席状況、受講態度) 20%にて評価する
履修上の留意点	履修中の私語厳禁、携帯の電源を切ること。保育者として、多様な子どもの命を守り健やかな育ちを支援するために必要な知識であるため、真摯に取り組むこと。
テキスト	子どもの保健・健康と安全 - 理論と実際 - 岸井勇雄・無藤隆・湯川秀樹 監修 同文書院
参考文献	子どもの保健 及川郁子・草川 功編 建帛社
教員e-mailアドレス	syouko_i@morioka-u.ac.jp
オフィスアワー	C校舎2階 LB213前に提示する。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年	2単位	卒業必修・幼稚園教諭2種免許必修・保育士必修
担当教員			
岸 千夏			
幼児教育科DP(1)(2)に関連	幼教-専門-卒業【卒・幼保】	実務経験のある教員による授業	【演習】
添付ファイル			

小見出し	保育内容に関する基本と指導に関する総合的視点の理解
授業計画	<p>1 「保育内容総論」の概要と授業計画</p> <p>2 保育の基本と保育内容</p> <p>3 保育内容の歴史的変遷</p> <p>4 領域と保育内容（1）3歳以上児の5領域</p> <p>5 領域と保育内容（2）1歳以上3歳未満児の5領域</p> <p>6 領域と保育内容（3）乳児保育の3視点</p> <p>7 保育の構造</p> <p>8 保育における計画と評価</p> <p>9 保育における記録</p> <p>10 子ども理解の重要性</p> <p>11 子どもの遊びの重要性</p> <p>12 保育のプロセス</p> <p>13 保育におけるPDCAサイクル</p> <p>14 保育実践の多様な展開と様々な連携</p> <p>15 保育内容の今日的課題と保育者の専門性</p>
授業のねらい及び概要	<p>保育の基本を理解し、保育内容を総合的に学ぶことをねらいとする。</p> <p>幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領に基づく保育の基本・保育内容をふまえて、保育の全体的構造について理解する。さらに、保育の多様な展開について具体的に学び、子どもを理解し実践を構想する保育者としての基本的視点を養う。</p> <p>幼稚園教諭として保育に十年以上携わってきた授業担当者の実務経験に基づき、毎回テーマに関連した実践場面の解説を取り入れる等し、保育に関する知識を具体的実践につなげて理解を深められるよう授業を行う。</p>
到達目標	<p>到達目標1 幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領に示されている保育の基本や保育内容について説明できる。</p> <p>到達目標2 子ども理解を起点とする保育のいとなみ（PDCAサイクル）を説明できる。</p> <p>到達目標3 保育者としてどのように子どもの姿を捉え、具体的手立てを考えるのか、記録・評価の観点を習得する。</p> <p>到達目標4</p> <p>到達目標5</p> <p>到達目標6</p> <p>到達目標7</p> <p>到達目標8</p>
事前・事後学修	<ul style="list-style-type: none"> 事前学修として、翌回の講義内容をテキストを用いて下調べし、自分なりの意見や疑問点をまとめておくこと（30分程度）。 事後学修として、毎回の講義内容についてテキストや参考文献を読んだり、学生同士でディスカッションし

	たりし、内容の確認と情報共有を行うこと（30分程度）。 ・保育の基本概念等について、自分なりに説明することを求める。そのため、理解した内容を言語化・文章化するトレーニングを行うこと（30分程度）。
評価方法	課題50%，最終レポート50% *提出を求めた課題に対しては、コメント記入や全体講評の形でフィードバックを行う。
履修上の留意点	第一回講義にて解説
テキスト	①「保育内容総論」（神長美津子ほか編著，光生館）ISBN 978-4332701811 ②「幼稚園教育要領解説」（文部科学省，フレーベル館）ISBN 978-4577814475 ③「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」（内閣府・文部科学省・厚生労働省，フレーベル館）ISBN 978-4577814499 ④「保育所保育指針解説」（厚生労働省，フレーベル館）ISBN 978-4577814482 *すべて生協書籍コーナーにて販売
参考文献	授業で適宜紹介
教員e-mailアドレス	chinatsu@morioka-u.ac.jp
オフィスアワー	研究室前（LB211）に掲示

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	1年	2単位	卒業必修・幼稚園教諭2種免許必修・保育士必修
担当教員			
岸 千夏			
幼児教育科DP(1)(2)に関連	幼教一専門一【卒・幼・保】	実務経験のある教員による授業	【演習】
添付ファイル			

小見出し	子どもの言葉の発達と領域「言葉」についての理解
授業計画	<p>1 「保育内容 言葉」の概要と授業計画</p> <p>2 乳幼児期の言葉の発達①－言葉の前の言葉期</p> <p>3 乳幼児期の言葉の発達②－3歳未満児の言葉の発達と保育</p> <p>4 乳幼児期の言葉の発達③－幼児期の言葉の発達</p> <p>5 乳幼児期の言葉の発達④－幼児期の言葉の発達と保育</p> <p>6 領域「言葉」の概要</p> <p>7 言葉を育てる児童文化財①－絵本・紙芝居</p> <p>8 言葉を育てる児童文化財②－ペープサート・パネルシアター・エプロンシアターほか</p> <p>9 乳幼児期の言葉の発達と領域「言葉」－まとめ</p> <p>10 乳幼児期の言葉の育みと保育者の役割</p> <p>11 児童文化財を用いた保育の展開①－活動の立案</p> <p>12 児童文化財を用いた保育の展開②－模擬保育</p> <p>13 児童文化財を用いた保育の展開③－模擬保育の検討</p> <p>14 児童文化財を用いた保育の展開④－評価・反省</p> <p>15 言葉の発達に課題をかかえる子どもへの保育者のかかわり</p>
授業のねらい及び概要	<p>子どもの言葉の発達過程を理解し、子どもの育ちを支える保育のあり方を学ぶ。</p> <p>また、児童文化財を活用した活動の指導案立案・模擬保育・評価反省を行う演習（詳細は授業計画参照）を通して、子どもの言葉を豊かに育む実践や保育者の役割について具体的に学ぶ。</p> <p>幼稚園教諭として保育に十年以上携わってきた授業担当者の実務経験に基づき、毎回具体的な事例や教材を取り入れた授業を行い、子どもの言葉を豊かにする保育について理解できるようにする。</p>
到達目標	<p>到達目標1 幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領に示されている領域「言葉」の保育内容について説明できる。</p> <p>到達目標2 乳幼児が言葉を獲得する道筋を理解し、それぞれの時期の発達の特徴を説明できる。</p> <p>到達目標3 子どもの言葉の発達を支える保育者の役割や具体的なかかわり方を説明できる。</p> <p>到達目標4 領域「言葉」の保育内容と子どもの発達を踏まえた情報機器（ウェブサイト等）及び教材の活用法を理解し、保育の構想に活用することができる。</p> <p>到達目標5 児童文化財について理解し、その特徴や保育における活用方法を説明できる。</p> <p>到達目標6 子どもの実態に即した指導案立案・模擬保育について学ぶとともに、教材研究の必要性を理解し、保育者として実践を構想する視点を身につける。</p> <p>到達目標7</p> <p>到達目標8</p>
事前・事後学修	<ul style="list-style-type: none"> 事前学修として、翌回の講義内容をテキストを用いて下調べし、自分なりの意見や疑問点をまとめておくこと（30分程度）。 事後学修として、毎回の講義内容についてテキストや参考文献を読んだり、学生同士でディスカッションし

	たりし、内容の確認と情報共有を行い理解を深めること（30分程度）。 ・子どもの言葉にかかわるものに関心を高め、自分なりに教材研究を行い、実習等に向けた児童文化財の作成や活動準備を計画的に進めることを求める。
評価方法	課題30%, 模擬保育30%, 最終レポート40% *提出を求めた課題に対しては、コメント記入や全体講評の形でフィードバックを行う。
履修上の留意点	第一回講義にて解説
テキスト	①「保育者をめざす人のための保育内容 言葉 第2版」(駒井美智子編, みらい) ISBN 978-4860154226 ②「幼稚園教育要領解説」(文部科学省, フレーベル館) ISBN 978-4577814475 ③「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」(内閣府・文部科学省・厚生労働省, フレーベル館) ISBN 978-4577814499 ④「保育所保育指針解説」(厚生労働省, フレーベル館) ISBN 978-4577814482 *すべて生協書籍コーナーにて販売
参考文献	授業で適宜紹介
教員e-mailアドレス	chinatsu@morioka-u.ac.jp
オフィスアワー	研究室前 (LB211)に掲示